

「思考力・判断力・表現力」を育成する キャリア教育の実践

～「主体的・対話的で深い学び」の授業を通して～

主体的・対話的で深い学び、キャリア教育、思考力・判断力・表現力

東大阪市立意岐部中学校

〒577-0033
大阪府東大阪市御厨東2-9-45

<http://www.city.higashiosaka.lg.jp/school/okibe-j/>

1. 研究の背景

本中学校区の子どもたちの中には、厳しい生活背景や家庭環境から、学習等に集中して取り組みにくい子どもや学習意欲に課題のある子ども、自分の描く将来像を狭い視野でのイメージしか持てない子ども、困難なことに直面するとあきらめてしまう子どもがいる。

このような状況から、子どもたちが自分の将来に夢を抱き、自分の生き方を切り拓く力を育むためには、中学校区として子どもの育成に取り組むことが必要不可欠だと教職員が認識を共有し、中学校区のめざす子ども像（中学校区教育目標）を『自分の夢・生き方を創りつづける子』として、日々の教育活動に取り組んでいる。すべての教育活動の中で、キャリア教育の視点を持ち、「夢づくり教育」の名のもと、子どもにつけたい力を「3領域10視点」として整理し、子どもたちに自分の夢や生き方をつくっていく力の育成を、中学校区で共通して取り組んでいる。校種間の接続を滑らかにするために、就学前から中学卒業までを発達段階に応じた4つのステージに分け、各ステージごとでの到達目標を「3領域10視点」にそって設け、各学校での取り組みを振り返ることができるようにしている。

「夢づくり教育」は、少しずつ形を変えながら継続的に実施され、中学校区の連携や保護者・地域との連携の形を整えてきた。しかし、長期的な振り返りの難しさや社会環境の変化に伴う子どもたちの変化など、今改めて、効果的な教育活動の整理が必要になってきている。

2. 研究の目的

子どもたちに、これからの予測困難な時代を生き抜く力をつけるため、本校では、さまざまな出会いや体験を通して学ぶ機会を計画している。それぞれの出会いや体験からの学びを自分の生き方につなげて捉え直すためには、事前学習、事後学習を含め、子どもが主体的に学び続けられる力、さまざまな情報から自分にとって必要なものを選び出す力、選んだことを整理し、活用、発信する力を育むことが求められる。一人ひとりが調べ、学んだことをまとめ、発信する際、PCでの情報収集、まとめ作業やプロジェクトでの投影などICT機器を活用することで、情報活用能力の育成を図ることをめざしている。そのために、まずは教職員が、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりにむけた、授業デザインの視点、計画性の共通認識をもつこと。そして、授業をデザインし、実践する力量を高める必要がある。

以上のことから、本研究では、子どもの「思考力・判断力・表現力」を育成するために、授業での子ども

の活動に対する見通し、つきたい力を育成する場面を計画して設ける授業デザインとその実践を、どのように創りあげていくかを明らかにしたい。

「思考力・判断力・表現力」を育成する「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりの研究を進めることで、教職員が意図した子どもどうしの対話の場面の積み重ねにおいて、子どもが互いのがんばりや活動についての振り返りや気づきを促す機会ともなる。そのことが、総合的な学習の時間や授業、行事などの取り組みを含む日常の教育活動においても、自己の考えを深めること、報告することや人に伝えることの工夫、子どもの次の取り組みへの姿勢や考え方に好影響を及ぼすと考えられる。

3. 研究の経過

時 期	取り組み内容	評価のための記録
4月6日	校内研修 「どの子ども学びたいと思える授業づくり」	
5月30日	校内研修 教科等横断のカリキュラムづくり	KJ法による所感（教員）
6月14日	指導案検討会 1年英語 *担当教科教員に加えて、学年教師も参加	指導案
6月23日	6・23 平和集会（オキナワ修学旅行報告会）	観察記録・プレゼン資料
7月6日	校内授業研 1年英語 「めざせ、一流インタビュアー！！ ～相手の情報をよりくわしくリサーチしよう！～」	観察記録 KJ法による所感（参加者）
7月12日	職業体験報告会 2年	観察記録・報告資料
7月21日	校内研修「どの子ども学びたいと思える授業づくり」 ～教科等横断の視点をもって、どの子ども学びたい 総合学習を創る～ 講師：大阪教育大学 佐久間敦史先生	総合学習の計画拡大法による所感（教員）
10月26日	校内授業研 1年「住みやすい町づくり～インタビューを盛り上げるナイスな質問を考えよう～」 2年「ハングルを学ぼう！～猪飼野 FW に向けて～」 指導助言：大阪教育大学 佐久間敦史先生	観察記録 KJ法による所感（参加者）
11月28日	校内研修「どの子ども学びたいと思える授業づくり」 ～子どもが主体的に探究する学びの創造～ 講師：大阪教育大学 佐久間敦史先生	総合学習の計画拡大法による所感（教員）
12月14日	校内授業研 1年「住みやすい町づくり」 2年「猪飼野 FW を振り返ろう」 指導助言：大阪教育大学 佐久間敦史先生	観察記録 KJ法による所感（参加者）
1月26日	指導案検討会 1年 *3年教師も参加	指導案
1月30日	指導案検討会 2年 *3年教師も参加	指導案

2月5日	公開研究発表会 1年「意岐部レインボープロジェクトを立てよう ～セクシャルマイノリティについて考える～」 2年「チャレンジ!おきべるるぶ ～オキナワの『実は…』にせまる!～」 指導助言：大阪教育大学 佐久間敦史先生	観察記録 授業における KJ 法による 所感や製作物（生徒） KJ 法による所感（参加者） コミュニケーションカード によるコメント（参加者）
2月20日	総括会議1（公開研究発表会の総括）	総括冊子
3月14日	総括会議2（今年度の研究の成果と課題を総括）	総括冊子
随時	「いこいの花園」へのTV設置・振り返り映像上映	活動記録DVD

4. 代表的な実践

《「探究する」総合的な学習の時間》

◇「意岐部レインボープロジェクトを立てよう～セクシャルマイノリティについて考える～」

単元 テーマ	住みやすい町づくり			
	1学期	2学期	3学期	
時期	移動教室	運動会	意岐部フェスタ	スキー教室
行事	移動教室	運動会	意岐部フェスタ	スキー教室
活動	動教 マンナム学活 について考える いじめ出授業 地域調べ学習 校区内フィールドワーク フィールドワーク振り返り	住みやすい町を考える （振り返り） フィエスタ	意岐部フェスタ後（振り返り） フィエスタ 東大阪をレインボーな町にしよう	オキレインボープロジェクトを発信しよう 世の中のしくみにおける課題に気づこう
資源	「あの子」 「ひらがなにつき」 「なまふをかいた 富田林市瑞字学校 西田一子さん」 「水牛社原生物語」	「バスと唐ちゃん」 「花火大会」	「私はあかねこ」 「いつわりのバイオリン」	
教科				

自ら課題を発見し、探究していく総合学習をめざし、1年生は「住みよい町づくり」をテーマに学習に取り組んだ。地域行事である「意岐部フェスタ」の機会を活用し、来場者に「あなたにとって東大阪は住みよい町ですか」とインタビュー活動をし、地域の人たちの意見を集め、「住みよい町とは？」について考えた。



「住みよい町」について考えていく中で、世の中では、セクシャルマイノリティの方が困っていること、生きづらさを抱えていることを知るにいたった。そこで、自分自身にある性への固定観念に気づき、課題解決に向け自分たちができることを考える学習に取り組んだ。



◇「チャレンジ！おきべるるぶ～オキナワの『実は…』にせまる！～」

単元テーマ Chance ! Challenge ! Change ! ～チャンスをつかもう 何事にもチャレンジしよう 自分を変えよう～			
時期	1学期	2学期	3学期
	自分で考え、遊び、行動する（職業体験）	人との出会いから、自分のことを振り返る（猪飼野FW）	仲間とのつながりの中で学び合う（オキナワ調べ学習）
学習の過程（キャリア教育の視点・教科横断的）	事業所探しの 職業体験 学活 報告会・作成 報告会	日本の共通点 日本の相違点 化に を持つとう シンセニム き取り ハングルを学ぼう の 史を学ぼう 猪飼野について知ろう 猪飼野 き取りを振り返ろう 報告会・作成 報告会	オキナワについて知っていることを出し合おう 平和について考えよう オキナワ調べ学習の集・発行 おきべるるぶのレイアウトを考えよう オキナワのあんなにインタビュー 平和のたのしみ オキナワ調べ学習のあじこと
道徳	と教そ、用で集て、くし、れ神、文、	るらふれ、る二、そ、す、て、解、い、知、の、	がに、に、は、多、く、い、て、
教科	・国語科…敬語	・家庭科…世界の料理	・家庭科…調理実習（沖縄の料理） ・音楽科…リコーダー「オキナワのあした」、三線の演奏 ・英語科…平和祈願の中を歌う洋楽を使っている授業

2年生では、修学旅行で訪れる沖縄についての事前学習を、探究する総合学習として授業をデザインし、取り組んだ。沖縄は観光地として知られており、子どもたちも何らかの情報や言葉については知っている。自分が知っている沖縄のことについて班で意見を出し合った。しかし、「それって何のこと？」とつっこんで聞かれると、答えられないことがあり、知っているようで知らないということに気づくところから学習を始めた。知らないことを詳しく知って、修学旅行を楽しむために、「おきべるるぶ」をつくらうというテーマのもと、KJ法を活用し、調べたいことながらについて整理、分類し、個人テーマの設定、調べ学習へと進んでいった。



調べた情報を整理する際、インターネットで検索して上位にくる情報が必ずしも正しいわけではない。本やその他の資料、他のインターネット上の情報と比較し、情報の真偽を確かめることについて子どもたちは学び、情報を集めていった。また、集めた情報から読みたくなる記事の作成に向け、レイアウトを工夫したり、仲間から意見をもらうことで、よりよいものに仕上がっていった。



◇「いこいの花園」へのTV設置・振り返り映像上映

「いこいの花園」という職員室前のスペースにTVを設置し、購入したDVDプレーヤーで子どもたちの学校生活の様子を放映した。「いこいの花園」は、子どもたちが休み時間やお昼休み、放課後など、集まって話をしたり、自主的に勉強をしたり、教職員と話をしたりする場である。子どもたちが日常的に集まる「いこいの花園」のTVを使って、子どもの学校生活や教育活動における活躍場面（各学年の行事や取り組みでの子どもの姿、



子どもの活動の様子)を、映像やスライドで、毎日の休み時間やお昼休みなどに流した。学校行事や取り組みにおいて、子ども自身が自分の姿を客観的に見返す機会はほとんどない。だからこそ、改めて自分の姿や仲間の姿を見返すことで、その時には気づかなかったこと「あの子がこんな活躍してたんやなあ」や、当時を振り返る中で気づくこと「この時は、一生懸命やったなあ」と、客観的に振り返る機会を子どもに提供することができた。

子どもたちへの働きかけとしては、定期的(月 2 回程度)に実施している全校集会や、各学年の集会、授業での取り組みや行事の振り返りの機会を活用した。教職員は日常の中で、子どものがんばりを認め伝えていく際に、「いこいの花園」で流している映像を話題にして、自分たちや仲間の姿、表情を見てみようと呼びかけたりした。このような働きかけは、教職員のキャリア・カウンセリングスキルの向上にもつながった。

「いこいの花園」で 上映した DVD
・意岐部中学校 (50 年の軌跡) 1951 年開校～2000 年
・おき中生 1 学期の活躍
・おき中生 2 学期の活躍
・おき中生 3 学期の活躍

5. 研究の成果

「思考力・判断力・表現力」を育成する「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに学校総体として取り組むことができた。その結果、教職員自身に多くの気づきが生まれ、授業づくりに反映されていった。具体的なものとして以下のものがあげられる。

○教職員の指導力の向上～教職員みんなで授業をつくる～

中学校では、教科の壁があると言われる。自分の教科とは異なる教科の授業に対して、専門ではないので意見を言いづらいといった類のものである。しかし、学年教職員全員が教科の壁を超えて授業をつくることで、多様な視点からアイデアが生まれ、「子どもが学びたくなる導入の工夫に新しい発想が得られた」や、「専門的な発想を柔軟にいかすことができた」といった、より効果的だという実感を教職員は得ることができた。

○テーマの必要性

総合的な学習の時間の授業を計画する上で、ゴールに向かうテーマの必要性を確認することができた。知識を教える学習であれば、テーマに向かう授業デザインはあまり必要なく、授業を進めることができた。しかし、子どもが主体的に探究する授業をデザインすると、子どもが活動する時間をどれだけ子どもに委ねることができるのかが試される。子どもが調べ、探究し、考えた意見について、ゴールをどこに据えて教師がゆさぶるのか。教師のめざすもの、つけたい力への見通しははっきりしていないと、学習が深まらないということを確認することができた。

○子どものつぶやきや考えから、授業を展開～イメージを具体の授業実践にする～

「主体的・対話的で深い学び」の理念や、「思考力・判断力・表現力」の育成の重要性は理解していても、実際の授業でそれらをどのように実現すればいいのかわからない状態の中、今回の研究をきっかけとして、チャレンジしてみることによって、子どもが「自ら課題を発見し探究する授業」を具体の授業実践として形にすることができたことは大きな成果である。

ゴールを見通して、子どものつぶやきや考えをつないでいく授業では、学習の過程に、「仲間の思いに気づく」、「子ども自身が知識・情報の必要性を感じる」、「思考を整理し、表現する」、「意見や考えを伝え合う」、「情報を比較し、整理する」、「自分の考えをまとめ、表現する」といった学びがあることを再確認することができた。さまざまな出会いや体験を通して学ぶ中で、子どもたち自身が問題を発見・解決したり、多様な人々との出会いから学んだことを、学級の仲間と考えを伝え合い、合意形成を図るにはどうすればいいのか

という問題解決力や、自分の考えを深めて表現する力を伸ばすことにつながった。それが、子どもの「思考力・判断力・表現力」の育成につながる学びであり、自分がこれからの社会をどのように生きていくのか、行動につなげる素地を育むことにつながったと考えられる。

6. 今後の課題・展望

○単元を計画する力「教科等横断のカリキュラムづくり」

子どもの「思考力・判断力・表現力」の育成には、子どもが思考する場面、判断する場面、表現する場面が必要不可欠である。教師が意図して子どもにつけたい力をつける場面を計画していくカリキュラムを構想する力が必要である。そこには、テーマにそってゴールをめざすといった見通しをもったうえで、子どもに活動場面を委ね、ゴールに向けて子どもにゆさぶりをしかけていける教師の力量が求められる。また、「思考力・判断力・表現力」を育成するためにも、子どもの何を、どこを評価するか教師の明確な視点が必要である。今回の研究を通して、教職員はその必要性を共通認識としてもつことができた。今後は、「教科等横断のカリキュラムづくり」に学校総体として取り組み、子どもが活動する場面を意図して設け、子どもの力の伸びを検証し、確かめていける授業づくりに取り組んでいきたい。

7. おわりに

「思考力・判断力・表現力」を育成するキャリア教育の実践～「主体的・対話的で深い学び」の授業を通して～をテーマに、今年度研究に学校総体として取り組んだ。理念はわかるものの、具体の授業デザインがわかりにくい中、具体の授業実践を創りだすことができたのは、ひとえに本校の教職員の努力とそれを支える同僚性につきる。イメージの共有から具体の実践をつくることへのハードルの高さ、ここには、教職員自身が今まで積み重ねてきた実践や授業のあり方に対するある種の固定化された枠組みがあった。本研究を通して、少しのチャレンジをしてみることから、既存の枠組みを乗り越えることができたと感じている。これからも学校総体として、内容の充実に向けて取り組んでいきたい。

最後になりましたが、子どもが自ら課題をみつけ、探究する総合的な学習の時間について、継続してご指導いただいた、大阪教育大学の佐久間敦史先生に厚くお礼申し上げます。

8. 参考文献

- ・文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300534.htm